

無線通信開通、緊急事態にも安心 — アトゥモロックで試験通信成功 —

「うれしい!」「これで安心!」「Bong Kamdom! (ピラーン語で) ありがとう。」無線を通じて G. サントス市の CMB 事務局に届いたアトゥモロック住民からの一言メッセージです。

本年度国際ボランティア貯金寄附金配分を受けて実施した「通信疎外地域への無線設備の設置」事業は、このアトゥモロックを初め、キアミ、サムラング、ラムブソンなど、8つのコミュニティとキー局である CMB 事務局を結ぶもので、9月にはまず、アトゥモロックとの間で試験通信に成功しました。

今回の事業で恩恵を受けるのは5千人程度で、私たちが関わっている人々のまだ半分ぐらいです。しかし、少なくともこの地域は、医療のみならず、治安に関しても、「通信疎外」でなくなります。孤立感から解放されて、経済的に自立したコミュニティ作りに、住民が安心して取り組めるようになると期待しています。

15日付 CMB ノーマ校長のメールには、配備された携帯無線によるラムアプス小学校マリオ先生からの報告もありました。「まだ何も起きていないが、MILF や政府軍兵士をムラで見かけた。心配だ」というものです。

ラムアプス校のあるラムブソンを含めて、当会支援地域に限れば、いわゆる難民や避難民はいませんが、イスラム勢力に対する政府軍の武力行使や大規模開発がある限り、山の住民の多くは難民予備軍といえます。

「いつもの静かなムラに戻りました」の無線連絡が、CMB に届いていることを願っています。

(山崎)

＜アトゥモロック

無線アンテナ・ポール工事＞



＜集会室の無線機とバッテリー

管理責任者はエルリンダ先生＞



笑顔のレオ君 — あれから1年、おかげで元気になりました —



むくみのひどかった1年前 (通信 23号) とは別人のようなレオ君
(7月末、CMB クリニックで両親と)

7月の現地訪問時、退院以来続いている3週間ごとの定期検査と、今回は豚に噛まれた傷の手当て(破傷風予防接種)のため、キアミから出てきたレオポルドに会いました。この傷の影響もあるのか、尿検査数値が多少悪かったようですが、本当に豚に噛まれたの? 「Pig? Pig?」を連発したら、父親と顔を見合わせてニッコリ。6月からはキアミ小学校にも通っています。11歳、2年生です。 (山崎)

＜定期検査平均経費: キアミからの通院費補助も含めて約1,800円/回。昨年ご寄附いただいたレオ君特別支援金(600ドル/65,460円)は、当初の入院、検査、治療費 及び、15回の定期検査費に、充当させていただきました。ありがとうございました。＞

助産婦ジョジョの医療支援報告—CMB クリニック日誌 (平成13年6月~8月) 53事例より抜粋 —

《6月》*マラダン町ダタルバトゥンの乳児(生後12日)新生児破傷風で入院。*チボリ町グルンガの女性(40歳)肺結核で入院。*アトゥモロックとトゥランボンで巡回診療(両地区合計患者数327名)

《7月》*マラダン町アルキカンの幼児3名、デング熱で入院。*同地区ハンセン病の少年(14歳)治療開始。

《8月》*高熱・痙攣が続いたキナム町キアミの乳児(4ヶ月)集中治療室に入院、1週間後退院。

《6-8月》コミュニティ配備薬利用者数: インフルエンザを含む風邪351、下痢55、歯痛43、外傷38、皮膚病13、その他。 — 症状が軽度ならこの配備薬で、その他は、G. サントスの CMB クリニックで対応しています —